

兵庫県における棚田景観の視覚特性

～棚田をどう見るか～

緑環境景観マネジメント研究科 景観活用デザイン領域

○教授 ^{しん} 沈 ^{えつ} 悦







キーワード

棚田, 景観, 農寸観光, 集落, 視覚経験

研究概要

棚田景観は日本の代表的なもの一つとして海外の情報誌に頻度高く挙げられています。観光立国背景下の優れた観光資源とも言えます。しかし近年、農村地域の人口減少や棚田耕作廃棄の拡大などに伴って棚田景観の変容をしています。良好な棚田景観のタイプを保全するために重要な景観構造の解明とその保全対策の検討が必要となります。本研究は、多くの人に評価される棚田景観の把握とそれらの景観を眺められる視点の確保、各視点と眺望対象との関係性の明確化を行い、時の変化に伴う景観変化を加味した地域棚田景観の視覚構造を明らかにすることを目的としました。

(図 棚田景観のタイプも整理)

近景域	タイプA 民家・棚田合成型	タイプB 棚田・自然物合成型	タイプC 築祀拠点一体型
	 <p>景観要素 民家、樹木、棚田、ため池 構成員 半視域的俯瞰を構成員、視距100m以内、民家と棚田がセットで主視対象となる。</p>	 <p>景観要素 棚田、ため池、木、草、農具、山 構成員 半視域的俯瞰を構成員、棚田の視距100m以内、棚田・近景の木々等がセットで主視対象となり、中景地の山が背景となる。</p>	 <p>景観要素 棚田、築祀拠点、樹木、鳥居、山 構成員 半視域的俯瞰を構成員、築祀拠点までの視距200m以内、田舎の築祀拠点を棚田がセットで主視対象となり、背景は中景地の鳥居・山</p>
近景～中景域	タイプD 集落・工作物・棚田合成型	タイプE 自然物背景型	タイプF 構造物背景型
	 <p>景観要素 棚田、樹木、鳥居、工作物、山 構成員 半視域的俯瞰を構成員、棚田への視距は数m～数百m以内、背景は山までの景観にわたる。棚田・ため池が主視対象、中景地に民家、山が背景となる。</p>	 <p>景観要素 棚田、ため池、木、草、山、水 構成員 俯瞰を構成員、視距は数m～数百m以内、自然物背景。棚田・ため池が主視対象、広がり感のある景観のなか、中景地の稲刈り機、運搬機が山に添ってある。</p>	 <p>景観要素 棚田、構造物、山 構成員 半視域的俯瞰を構成員、視距は数m～1km以内、谷間の棚田、背景となる構造物が視覚の中心となり、直洋型構造物は自律的な棚田のコントラストが大きい。</p>

アピールポイント

各景観タイプの要素構成の分析から、土地利用要因を除き、良好な棚田景観の保全はまず俯瞰できる視点場の確保が重要であります。また棚田といった要素と棚田の周辺に存在する山、樹木、民家・集落など周辺要素との関係が深く、これらの周辺要素が棚田景観の形成に重要な役割を果たしています。この視点から魅力のある景観演出にはこれらの周辺要素が不可欠な位置づけとなることが考えられます。

